

「地元の民話」に挿絵が完成

3月27日に完成記念発表会



市内の主婦らが制作した挿絵

地域の民話を語り継ごうと、訪問ボランティア団体「ONE♡ハート」(齋藤恵美子代表)が昨年完成させた座間・海老名・綾瀬に伝わる民話の脚本。これを受けて進められてきた挿絵220枚が先月30日に完成し、3月27日(土)、ハーモニホールで朗読発表会が行われる。

脚本の寄贈も予定

座間・海老名・綾瀬を中心とした127人の健常者と障害者が、施設や小学校などを訪問し、音楽演奏や朗読を披露する同団体が民

話の脚本作りを始めたのはおとしのこと。

「人から人に語り継がれる地域の民話を子どもたちへ」(齋藤代表)と、同会

のメンバーらが市役所や図書館で郷土資料を調べたり、寺社まわりなどで民話を聞きだしていった。脚本作りには障害者も校正作業などを中心に参加した。

広がった協力の輪

昨年3月、脚本を1年がかりで完成させた同会代表の齋藤さんは、制作当初から映像を使った朗読発表会を計画、挿絵を描いてくれるボランティアを探していた。昨年、本紙がこの取り組みを取材したことがきっかけで、市内外の40代から60代の女性8人が挿絵作りを手をあげた。

完成した脚本22作品に対し、物語の各シーンを描いた挿絵は220枚にのぼった。挿絵作りに参加した座

間市内に住む美大出身の主婦(40歳代)は「郷土を語り継ぐ取り組みに協力できれば」と、70枚の挿絵を5カ月かけて完成させた。齋藤さんは「私たちの取り組みに多くの方々協力してくださり素晴らしいものができました」と話す。

脚本と挿絵の完成を記念して3月27日(土)にハーモニホールで朗読発表会が開催される。参加無料。午後1時開演(12時30分開場)。当日は、同会のメンバー12人がスクリーンに映し出された挿絵に沿って脚本を朗読する。齋藤さんは「紙芝居の要領で大人も子ども楽しめる発表会にしたい」と意気込んでいる。同会によると、海老名・綾瀬でも4月に発表会を行うという。今回完成した脚本は、今年度内に市内の図書館や学校、障害者施設などに寄贈される予定。

問い合わせは ☎0467・79・1379 (同会本部事務局)。